

横查情報月報



2017
10月

横浜市衛生研究所

平成29年10月号 目次

【トピックス】

平成29年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)	1
残留農薬検査(その2)	4
アレルギー物質を含む食品の検査結果(その1)	7

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月	9
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	13
---------------------	----

平成29年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7～9月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。



その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成29年7月から9月の種類同定検査件数は11件で、すべて福祉保健センターからの依頼でした。内訳は昆虫類9件(カメムシ目1件、コウチュウ目2件、ハチ目5件、ハエ目1件)、その他の節足動物2件(クモ目2件)でした。特定外来生物のヒアリが7月に横浜港で発見されたことから、アリ類(ハチ目)の相談が多くみられました。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
自宅の階段、床に小さな虫がみられる。	 幼虫、褐色、約0.5mm	カメムシ目の一種 (カメムシ目)	カメムシ目は不完全変態の昆虫で、種類数が非常に多く、様々な環境に生息する。幼虫と成虫はほぼ同じ食物を摂取し、植食性または肉食性(捕食性)の種がある。
家の2階部分に多数の虫がみられる。	 成虫、黒褐色、約8mm	カツオブシムシ属 (<i>Dermestes</i>)の一種 (コウチュウ目)	本科の幼虫は本来、肉食性で干肉、毛皮、羊毛、干魚などを食害する。種によっては植物質や穀物類を食害するものもみられる。
リビングに幼虫が多数みられる。	 幼虫、黄白色、約2.5mm	ケシクスイムシ科の一種 (コウチュウ目)	成虫、幼虫共に傷ついた果物を吸汁し、腐敗植物を食べる種が多い。また穀類から発生する種もいる。
自家用車から降りた際にアリを発見した。	 成虫(働きアリ)、茶褐色、約2.5mm	シリアゲアリ属の一種 (ハチ目)	働きアリは小形から中型のアリ。草原や林内の石下や土の中、枯木中などに巣を作る。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
屋外で「アリに咬まれた」と通報があったため、現地調査を行い、アリを採取した。	 <p data-bbox="411 524 724 595">成虫(働きアリ)、茶褐色、約2.5mm</p>	アミメアリ (ハチ目)	女王アリを欠き、働きアリが産卵して働きアリに育つ。数万～数十万の働きアリが石下や倒木下に野営しながら長い列をつくって移動する。
	 <p data-bbox="411 875 724 947">成虫(働きアリ)、黒色、約5mm</p>	ウメマツオオアリ (ハチ目)	樹上営巣性で、巣は立木の枯れ枝等に見られる。
食卓でアリを発見した。	 <p data-bbox="411 1196 724 1220">成虫(雌)、黒色、約8mm</p>	ヤマアリ亜科 (ハチ目)	本科は、温帯地方では大型で活発な種類を含み、地上活動性の種も多い。営巣場所は多くの種では地中である。アリ類は決まった時期、無数の有翅虫(雌雄成虫)が結婚飛行のため巣から飛び立つ。
自宅で羽アリを発見した。	 <p data-bbox="411 1489 724 1561">成虫(雌有翅虫)、黒色、約8mm</p>		飛行を終えた雌成虫は、地上に降り、翅を落とす。種類によって結婚飛行の時期は異なる。飛行を終えた雌雄成虫は、灯火、窓際に多数飛来し、不快害虫となることが多い。
住宅建物周辺にハエが群飛している。	 <p data-bbox="411 1841 724 1865">成虫、灰黒色、約6mm</p>	ヒメイエバエ (ハエ目)	小型のハエで、早春から発生する。成虫は、屋内に侵入し、輪舞する。幼虫は動植物性の腐敗物、動物の排泄物、生ゴミなどに発生する。

相談内容・ 発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
草むらにおいて あった樽に付い たクモに咬まれ た。	 <p data-bbox="427 479 715 510">成虫、黄褐色、約10mm</p>	コマチグモ属の一種 (クモ目)	ススキ、ヨシ、カヤなどイネ科 の葉を曲げて住居をつくり、 その中に産卵する。咬まれ た際の痛みは激しいが、致 命的ではない。
敷地内でクモを 発見した。	 <p data-bbox="435 741 705 772">成虫、黒色、約2.5mm</p>	クモ目の一種 (クモ目) この検体は破損が激 しく、これ以上の同定 は不可能であった。	クモ目は肉食性で種々の節 足動物などを食べる。海岸 から高山地帯まで広く分布 し、生息場所は、建物内、地 中、地表面、草間、樹間など 多岐にわたる。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

残留農薬検査(その2)

食品中に残留する農薬などが、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、平成29年6～8月に食品専門監視班、各区福祉保健センターが搬入した農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

6月に搬入されたこまつな(6検体)、なす(5検体)、きゅうり及びトマト(各2検体)の15検体、7月に搬入されたかぼちゃ、きゅうり、トマト及びびばれいしょ(各1検体)の4検体、8月に搬入されたなす(1検体)、日本なし及びぶどう(各2検体)の5検体、合計24検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。きゅうり1検体、こまつな5検体、なす3検体、日本なし2検体及びぶどう2検体の計13検体からアゾキシストロビン等11種類の農薬が0.01～0.23ppm検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農産物(野菜の冷凍食品を含む)

7月に搬入されたかぼちゃ(冷凍)、きゅうり及びトマト(各1検体)の3検体、8月に搬入されたいちじく、すいか及びすもも(各1検体)の3検体、合計6検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。いちじく、かぼちゃ(冷凍)、きゅうり、すもも及びトマト(各1検体)の計5検体から、クロルフェナピル等4種類の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

3 輸入農産物

8月に搬入されたグレープフルーツ2検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。1検体からクロルピリホスが0.11ppm検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えていませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(H29年6月～8月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
かぼちゃ	横浜市	1	0			
きゅうり	横浜市	3	1	*アゾキシストロビン	0.02	1
				*クロチアニジン	0.03	2
こまつな	横浜市	6	5	イミダクロプリド	0.01	5
				テフルトリン	0.01、0.04	0.5
				テフルトリン	0.01	0.5
				フルフェノクスロン	0.01	10
				クロルフェナピル	0.06	5
				チアメトキサム	0.01	5
				テフルトリン	0.02	0.5
トマト	横浜市	3	0			
なす	横浜市	6	3	クロルフェナピル	0.08	1
				クロチアニジン	0.01	1
				クロルフェナピル	0.04	1
				アセタミプリド	0.05	2
				クロルフェナピル	0.02	1

表1 残留農薬検査結果(続き)

(H29年6月~8月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値	基準値
					(ppm)	(ppm)
市内産農産物(続き)						
日本なし	横浜市	2	2	フェンプロパトリン	0.11	5
				アゾキシストロビン	0.11	2
				クロルフェナピル	0.01	1
				フェンプロパトリン	0.17	5
ばれいしょ	横浜市	1	0			
ぶどう	横浜市	2	2	イミダクロプリド	0.03	3
				クロルフェナピル	0.01	5
				ファモキサドン	0.14	2
				ペルメトリン	0.23	5.0
				アゾキシストロビン	0.03	10
				イミダクロプリド	0.09	3
				クロルフェナピル	0.02	5
				ペルメトリン	0.10	5.0
国内産農産物						
いちじく	愛知県	1	1	クロルフェナピル	0.02	2
かぼちゃ(冷凍)	北海道	1	1	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.006	0.03
きゅうり	福島県	1	1	クロルフェナピル	0.02	0.5
				チアクロプリド	0.12	1
すいか	神奈川県	1	0			
すもも	山梨県	1	1	アゾキシストロビン	0.15	2
トマト	北海道	1	1	アゾキシストロビン	0.01	3
輸入農産物						
グレープフルーツ	南アフリカ	2	1	クロルピリホス	0.11	1

*中括弧({})は同一検体からの検出

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A*1	B*1	C*1	D*1			A	B	C	D
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	-*2	-	-	エンドリン	0.005	-	○	-	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	オキシカルボキシ	0.01	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	オリザリン	0.01	-	○	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	○	カズサホス	0.01	○	○	○	○
アジンホスメチル	0.01	-	-	-	○	カフェンストール	0.01	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	-
アニロホス	0.01	○	○	○	-	クミルロン	0.01	○	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	○	クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	-
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	-	クロリダゾン	0.01	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○	○
エチオン	0.01	○	○	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	○	クロルフェンソン	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	○	-	クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	-	○	-	-	クロロクスロン	0.01	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
シアゾファミド	0.01	○	○	○	-	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	フェリムゾン	0.01	○	-	-	-
ジウロン	0.01	○	○	○	-	フェンアミドン	0.01	○	○	○	-
ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○
ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	フェントラザミド	0.01	○	○	○	-
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	○	フェンバレレート	0.01	-	○	○	-
シフルトリン	0.01	-	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	-	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	-	○	フェンプロパトリン	0.01	-	○	○	○
シペルメトリン	0.01	-	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○
ジメチリモール	0.01	-	-	○	○	ブタミホス	0.01	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	-	フラメピル	0.01	○	○	○	-
スルプロホス	0.01	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	-	○	○	-
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	-	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○
チアメトキサム	0.01	○	-	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
テトラジホン	0.01	○	○	○	-	プロピザミド	0.01	-	○	○	○
テブチウロン	0.01	○	○	○	-	ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-	-
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-	-
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
トラルコキシジム	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	-	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
トリフルムロン	0.01	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	ペントキサゾン	0.01	○	-	-	-
ノバルロン	0.01	-	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	-
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○	○	○
ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	-	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
ピラゾリネート	0.01	-	-	○	○	メビンホス	0.01	○	○	○	○
ピリフタリド	0.01	○	○	○	○	モノリニューロン	0.01	○	○	○	-
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○	-	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.002	○	○	○	-
フェントロチオン	0.01	○	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	-	○	○	○

*1 A:かぼちゃ、こまつな、トマト B:きゅうり、なす C:ばれいしょ
D:いちじく、グレープフルーツ、すいか、すもも、日本なし、ぶどう

*2 ○:実施、-:実施せず

*3 DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その1)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーをもつ人がその食品を食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難などのアレルギー症状を引き起こし、死に至るケースも考えられます。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品の検査を行い、食品の安全を確認しています。

平成29年5月及び8月に健康福祉局食品専門監視班が市内の食品製造所で収去した食品と、インターネット通販で買取した食品について、乳、卵、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 乳の検査

原材料に乳を使用していないとされる食品16検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、菓子類1検体が陽性(10ppm以上)となり、ウェスタンブロット法による確認試験でも陽性となりました。その他の15検体は、スクリーニング試験ですべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。なお、陽性となった検体は、インターネット通販で買取した乳製品不使用をうたっているチョコ入り米粉ケーキであり、製造所を所管する自治体に調査を依頼しました。

表1 乳の検査結果

検体名	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
菓子類 ^{*1}	11	1	1	1
弁当・そうざい類	2	0		
冷凍食品	2	0		
ソース類	1	0		
合計	16	1	1	1

^{*1} 生地1検体を含む

2 卵の検査

原材料に卵を使用していないとされる食品21検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 卵の検査結果

検体名	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
菓子類	11	0		
弁当・そうざい類 ^{*2}	6	0		
冷凍食品	2	0		
ソース類	1	0		
めん類	1	0		
合計	21	0	0	0

^{*2} 加熱前のそうざい1検体を含む

3 小麦の検査

原材料に小麦を使用していないとされる食品7検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

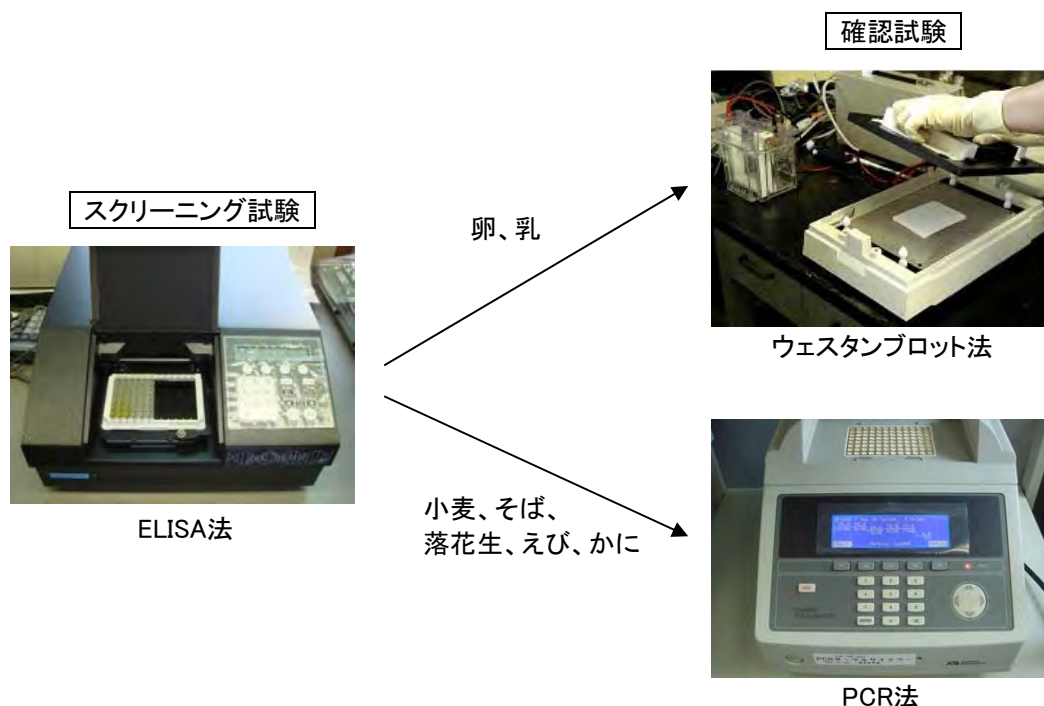
表3 小麦の検査結果

検体名	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
菓子類	4	0		
冷凍食品	1	0		
めん類	1	0		
レトルト食品	1	0		
合計	7	0	0	0

☆「スクリーニング試験」と「確認試験」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング試験で陽性の可能性がある検体を選び出し、その後、別の検査法で陽性の確認を行っています。

ELISA法によるスクリーニング試験は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認試験を行います。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 手足口病の流行警報が発令されています。
- RSウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈9月期に報告された全数把握疾患〉

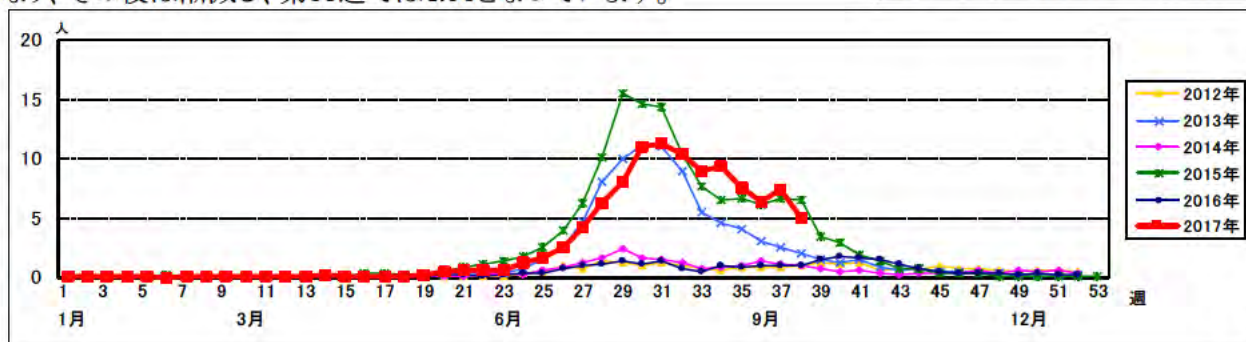
細菌性赤痢	2件	急性脳炎	3件
腸管出血性大腸菌感染症	28件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
ジカウイルス感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	6件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	梅毒	11件
アメーバ赤痢	5件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	—	—

- 細菌性赤痢: *sonnei*(D群)の報告が2件ありました。インド、タイでの経口感染と推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が16件、O26の報告が11件、O145の報告が1件ありました。うち、無症状病原体保有者が8件でした。集団内での発生の報告がありました。
- ジカウイルス感染症: 1件の報告があり、キューバまたはバハマでの蚊からの感染と推定されています。
- デング熱: 1件の報告があり、タイでの蚊からの感染と推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件ありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 5件の腸管アメーバ症の報告がありました。いずれも感染経路等不明で、感染地域は、国内またはハワイが1件、国内またはトルコが1件、国内が3件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件、10歳代の報告が1件ありました。1件は腸内細菌科細菌、2件は病原体不明でした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が5件、AIDSの報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が5件、異性間が1件でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)でした。
- 梅毒: 男性7件、女性4件の報告があり、病型は無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件でした。推定感染地域は国内が9件、ミャンマーが1件、不明が1件でした。感染経路は性的接触が10件(異性間9件、性別不詳1件)、不明が1件でした。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 3件の報告がありました。

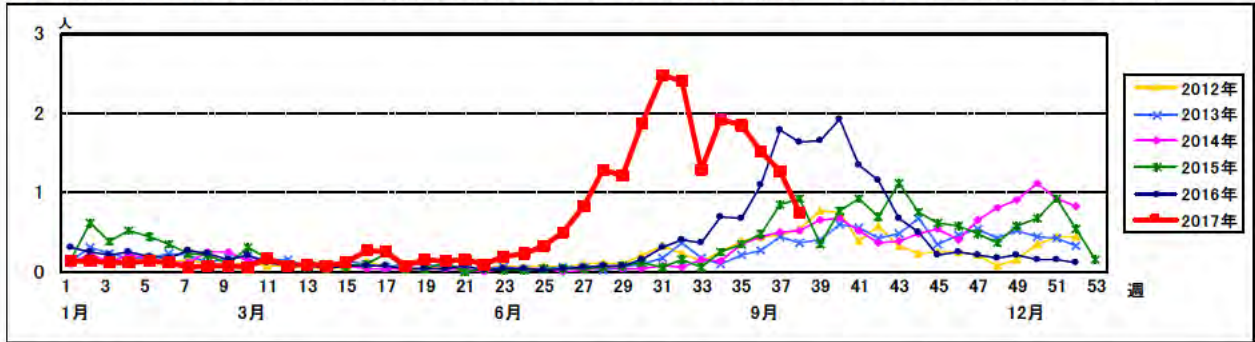
◇ 定点把握の対象

- 手足口病: 第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第31週に11.20となり、その後は漸減し、第38週では4.95となっています。

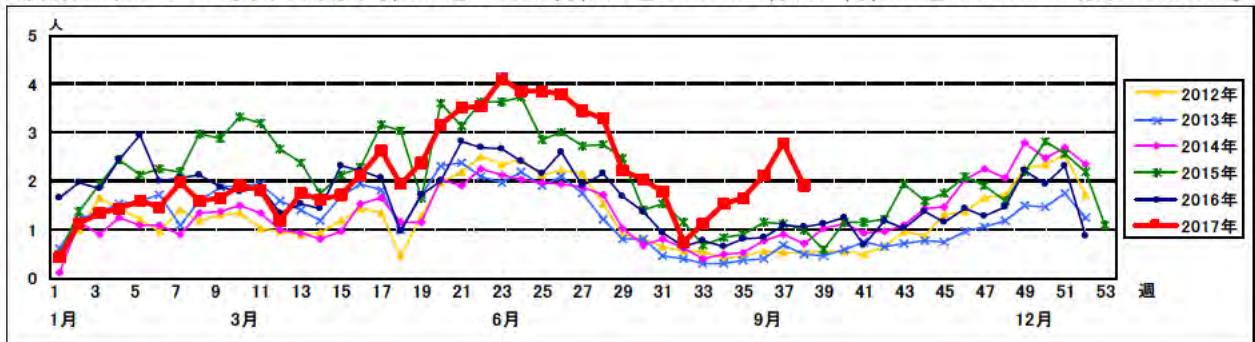
第35週	8月28日～9月 3日
第36週	9月 4日～9月10日
第37週	9月11日～9月17日
第38週	9月18日～9月24日



2 RSウイルス感染症：例年より早く増加し始め、第31週で2.47となり、観測を開始した2003年以降、市内では最も高値となりました。その後も例年より高い水準で推移し、第38週では0.74となっています。



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：第35週で1.65、第37週で2.78と増加し、第38週では1.90と減少しました。



4 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:31件	女性:29件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性: 7件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:20件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.25	0.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	2件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件、内科定点7件、眼科定点2件、基幹定点12件でした。

10月10日現在、ウイルス分離5株と各種ウイルス遺伝子27件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	ア デ ノ 感 染 症 *2	手 足 口 病 *1	ヘル パン ギー ナ	発 熱
インフルエンザ AH3型			1				
インフルエンザ B型山形系統			2				1
アデノ 2型				1			
アデノ 型未同定				2			
パラインフルエンザ 1型	1	1					
パラインフルエンザ 3型	2	2					1
RS	2	5					
ヒトコロナ*3		1					
エンテロ 71型					1		
パレコ 3型							1
コクサッキー A6型	1				2	1	
コクサッキー A8型		1					
コクサッキー A10型	1						
エコー 3型							2
合計	7	10	3	1 2	1 2	1	5

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

9月の「細菌感染性胃腸炎」は赤痢菌 (*Shigella sonnei*) が基幹定点とその他から1件ずつ、腸管出血性大腸菌 (O157:H7, VT1&2が8件、O157:H-, VT1&2が1件、O157:H7, VT2が7件、O26:H11, VT1が6件) がその他から22件、サルモネラ属菌が基幹定点からO4群1件とO9群2件でした。

「その他の感染症」のレジオネラ属菌は *Legionella pneumophila* SG5でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

細菌感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	9月			2017年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	4	23	6	47	85
菌種名						
赤痢菌		1	1		3	2
腸管出血性大腸菌			22		7	74
腸管毒素原性大腸菌					5	3
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		3			18	5
不検出	0	0	0	6	9	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	9月			2017年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	2	2	8	27	83	141
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				9		1
T1						
T4	1			4		
T6				4		
T12			1	2		1
T B3264				3	1	1
型別不能				1		
B群溶血性レンサ球菌			2		2	7
G群溶血性レンサ球菌			1		2	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						3
バンコマイシン耐性腸球菌			4			8
レジオネラ属菌		1			1	5
インフルエンザ菌				1	1	4
肺炎球菌					5	14
結核菌					20	66
百日咳菌		1			4	
緑膿菌					1	
その他					44	22
不検出	1	0	0	3	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年9月の総アクセス数は、98,632件でした。前月に比べ約3%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*167.3%、保健情報9.3%、検査情報月報3.9%、食品衛生3.3%、生活環境衛生2.7%、薬事0.6%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

9月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「大麻(マリファナ)について」、2位は「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、3位は「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。1位の「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数は、継続的に上位を占めています。

表1 平成29年9月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	5,322
2	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,976
3	横浜市感染症情報センタートップページ	3,926
4	衛生研究所トップページ	3,014
5	電子パンフレット「MRSAってなあに？」	3,007
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,873
7	EBウイルスと伝染性単核症について	1,375
8	ライノウイルスについて	1,346
9	横浜市感染症発生状況(全数情報)	1,325
10	手足口病の発生状況(2017年第34週)	1,320

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年9月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 平成29年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
英国の予防接種情報について	1	感染症・疫学情報課
予防接種について	1	感染症・疫学情報課
リンクの許諾について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成29年9月に追加・更新した主な記事は、6件でした(表3)。

表3 平成29年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 4日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
9月 5日	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
9月 6日	破傷風について	更新
9月 6日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新
9月21日	衛生研究所YCANドメイン移行業務委託の公募について	掲載
9月21日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新

【 感染症・疫学情報課 】